

平成28年度 山口県立防府商工高等学校(全日制) 学校評価書 校長(栗林正和)

<p>1 学校教育目標</p> <p>教育目標:豊かな校風を継承し、自ら学ぶ意欲と時代の変化に主体的に対応できる能力を備え、健康で社会や文化の発展に貢献できる産業人を育成する。</p> <p>中期的目標:①将来への夢づくり:自己実現を支援する教育の推進 ②輝く人づくり:仕事を遂行するために必要な職業能力の基礎・基本の育成 ③開かれた学校づくり:生徒、保護者、地域、教職員に開かれた教育の推進 ④いきいき環境づくり:教育目標を達成するための教育環境の整備</p>
--

<p>2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)</p> <p>①企業訪問や受験対策指導を早期に立案・計画・実施することによって、生徒の進路実現に向けた指導を充実させる必要がある。 ②家庭学習習慣を定着させるための具体的な指導方法を十分に検討し、全教科にわたって家庭学習習慣の定着を図る。生徒の読書傾向に偏りが出ないように指導し、読書の習慣化を図る必要がある。 ③Webページ等でのタイムリーな情報発信に努めるとともに、まちづくりに関する提案を含めた地域連携の取組を実践していく必要がある。 ④商業科・工業科における専門科目の興味関心を高めるための指導方法を工夫することにより資格取得意欲の向上を図り、合格者を増やすとともに、互いが連携した取組によってまちづくりに貢献できる人材を育成する必要がある。</p>
--

<p>3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題(社会人基礎力の育成)</p> <p>①一人ひとりに応じた組織的なキャリア教育の充実、就職・進学体制の整備 ②基礎学力、家庭学習の充実による確かな学力の保障 ③「時を守り、場を清め、礼を正す」ことの出来る生徒の育成 ④相手の人格といのちの尊厳を大切にす心の醸成 ⑤地域支援と積極的な情報発信と連携 ⑥商業科、情報処理科、機械科の協働によるスーパー専門学校の完成</p> <p>チャレンジ目標 — 自ら修めて我に克つ — ①就職100%達成 ②進学第一希望100%達成 ③資格取得 ④商業:全商1級3種目以上合格 ⑤工業:ジュニアマイスターシルバー取得 ⑥読書年間12冊以上 ⑦自ら考え判断し、行動する高校生</p>

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	重点目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
地域連携	・地域と連携した自立的活動の実践	自ら考え判断し、行動することを意識し、商業科、工業科の地域と関わり合う学習活動や、天神まちかどフェスタ、インターシップ等に取り組ませる。	4:関係者により、自立的な活動と評価されたものが6件以上。 3:関係者により、自立的な活動と評価されたものが4件以上。 2:関係者により、自立的な活動と評価されたものが2件以上。	4	商業科総合実践の模擬従業員、情報処理科の模擬行政職員の取組。課題研究ホットショップ班の活動。工業科の長期研修。工業科のテクノアカデミー。商業科・工業科共に実施した幼稚園・小学校・中学校への出前授業等において、自立した言動の原点である「問題認識」を明確にして取組を行うことが出来た。また、次年度への改善点も明確にされている。	防府商工高校の地域での活動は評価が高い。これまでのノウハウを活かして他の教育機関との連携がさらに進むと良い。	A
CT	・希望進路の実現に向けた継続的な学習	・各自が目標を持って希望進路の実現に向けた課題に取り組むことができるように、様々な場面を設定する。	4:「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が90%以上であった。 3:「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が75%以上であった。 2:「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が50%以上であった。 1:「進路実現に向けて役立つ時間だ」と回答する生徒が50%未満であった。	4	3年間を通して、CTの時間を活用してきた3年生のアンケートをもとに診断・分析を行った。それぞれの進路希望に応じて、「資格取得」「就職・進学試験」等の準備に取り組む、成果を上げることができたことに満足している生徒が多い。自主的な取組の時間を多くすることを希望する生徒がいる一方で、少数ではあるが、そのような時間を有意義に活用することに困難を感じた生徒もおり、そのような生徒への支援をどのように行うかが今後の課題である。	新しい生き方・働き方に対応した生徒の進路実現に向けて、指導の充実を図ってほしい。	A
校務	・各学校行事の円滑な推進	・各学校行事において、各部署との連携を密にし、各行事が円滑に行われるように努める。	4:学校評価等で業務がスムーズに遂行されていると評価する教職員が90%以上であった。 3:学校評価等で業務がスムーズに遂行されていると評価する教職員が80%以上であった。 2:学校評価等で業務がスムーズに遂行されていると評価する教職員が70%以上であった。 1:学校評価等で業務がスムーズに遂行されていると評価する教職員が70%未満であった。	4	教職員の学校評価アンケートの「各分掌等の情報交換により、業務がスムーズに遂行されている」の項目で「そう思う」「だいたいそう思う」が全体の90.4%を占めた。行事前の各分掌担当者との打ち合わせ・運営委員会・職員会議等を通して情報交換がなされた結果、各種行事が円滑に実施されていたように思う。しかしながら、「そう思わない」と回答した教員もいたということは、情報交換・打ち合わせ等に課題を残した。情報交換は口頭だけでなく様々な方法で適宜伝えるように努め、お互いが情報を的確に共有できる体制作りにも努めるとともに、得た情報をしっかり活用して充実した教育活動ができるように今後も努めていきたい。	組織内において、情報共有、共通理解、協働実践が行われているようなので、これを維持しつつこれからも業務の円滑な遂行をお願いしたい。	A
渉外	・保護者・外部団体・地域との連携	・同窓会、PTA、外部団体、地域との連携を更に推進するように努める。	4:定期的もしくは事前に十分な打ち合わせ、連絡調整等ができ、予定どおり行事が実施でき、同窓会・PTA・外部団体・地域との連携が十分に推進できた。 3:事前の打ち合わせ、連絡調整等の準備ができ、予定どおり行事が実施できた。 2:事前の打ち合わせ、連絡調整等がやや不十分で、行事における課題等が発生した。 1:打ち合わせ、連絡調整等が不十分のため、問題点が発生し、行事が滞った。	4	PTA総会やPTA評議員会、また本校のWebページを通して、学校の情報を保護者・地域社会に伝えることができた。また、本校最大の行事の一つである「天神まちかどフェスタ」においてPTAバザーに多くの役員・保護者の御協力を得ることができ、フェスタを盛り上げていただき、学校と保護者・地域社会との連携が深まった。また、一・二学期に実施している保護者会を通して、保護者の思いや生徒の家庭での様子を共有できていることは有意義であり、学校での教育活動に役立っている。今後は校内の分掌や学年・学科との一層の連絡調整を図りつつ、学校行事において保護者・地域社会との連携を更に深めて充実した教育活動が展開できるよう努力していきたい。	PTA役員を中心として保護者との連携が十分にとれているようである。同窓会や外部団体との連携も他の部署とよく相談の上、更に充実させてほしい。	A
教務	・家庭学習習慣の定着	・家庭で課題等に取り組ませることから、自主的に家庭で学習する習慣を身に付けさせることと、自ら学ぶ意欲の醸成と夢の実現のための基礎学力の定着を図る。	4:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの評価等から、家庭学習習慣が十分定着したと見られた。 3:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの評価等から、家庭学習習慣がおおむね定着したと見られた。 2:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの評価等から、家庭学習習慣があまり定着したとは見られなかった。 1:授業アンケート等による自己評価や学校評価アンケートの評価等から、家庭学習習慣が全く定着したとは見られなかった。	3	授業アンケートの結果から見ると、約80%の生徒が授業や実習に意欲的・積極的に取り組み、課題等の提出についても、80%以上の生徒が期限までに提出できていると答えている。しかし、あらかじめ授業の予習をしている生徒は40%程度で昨年と同程度。復習など授業の振り返りを行っている生徒は約40%と、昨年より低下している。また、保護者からの学校評価においても、家庭での学習時間が定着したとはいえない状況である。課題については、きちんとする意識は強いので、与えられた課題だけでなく、生徒自らが目的を持ち机に向かう習慣の定着を図るための取組を行う必要があると思われる。	家庭学習習慣を定着させるための具体的な指導方法を十分に検討し、基礎学力を身に付けさせてほしい。	C
	・授業力の向上	・授業アンケート、公開授業や教員間の授業見学、研究授業等の研修を通して授業の質の向上に努める。	4:授業アンケートや学校評価アンケート等による評価では、マイナスの評価が5%未満であった。 3:授業アンケートや学校評価アンケート等による評価では、マイナスの評価が7%未満であった。 2:授業アンケートや学校評価アンケート等による評価では、マイナスの評価が10%未満であった。 1:授業アンケートや学校評価アンケート等による評価では、マイナスの評価が10%以上であった。	3	生徒に対する授業アンケートの結果では、授業の狙いやポイント、教員の授業に対する準備や工夫、生徒の様子を見ながらの授業の進め方、授業や実習がわかりやすくなるような工夫、授業の進捗は適切である、などすべての質問に対しマイナスの評価は5%未満であった。今後とも授業アンケートにおける生徒からの意見等を参考にしつつ、授業内容の更なる精選と授業の質の向上に努める必要があると思う。	公開授業でアクティブ・ラーニングの取組を見ることができた。生徒の理解力向上のため、更に授業改善に努めてほしい。	B
図書	・読書習慣の定着と内容の充実	・朝の読書の時間等を通して、読書習慣を定着させる。 ・「図書だより」等で様々な分野の本を紹介する。	4:全校生徒の90%以上が、年間12冊以上読破することができた。 3:全校生徒の70%以上が、年間12冊以上読破することができた。 2:全校生徒の50%以上が、年間12冊以上読破することができた。 1:全校生徒の50%未満しか、年間12冊以上読破することができなかった。	4	「図書だより」やかかるた大会など、生徒の活動の活性化を目指した。文学以外の本の配架にも努め、本年度は進路に関連するものや進学に役立つもの、小論文の参考になるもの、就職試験の参考となる時事に関連するもの等の図書購入に配慮した。ライトノベルや話題の本に流れがちな傾向は変わらないが、先生方の指導もあって図書室を利用する生徒は増えたようである。今後とも幅広く自身の進路や仕事の選択に参考となるものに目を向けさせたい。	朝の読書は効果があると思う。読書傾向に偏りが出ないように指導し、読書の習慣化を図ってほしい。	A
指導	・生徒の規範意識の向上及び防府商工としての責任ある行動力の育成	・社会に通用する人材の育成として、挨拶・身だしなみ・言葉遣い・時間厳守を特に指導する。 ・また校外において、仲間を思いやる行動・責任ある行動をとれるよう継続指導を行う。	4:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が80%以上であった。 3:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が60%以上であった。 2:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が40%以上であった。 1:学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が40%未満であった。	4	学校評価アンケートにおいて「校則や決まり事を守っている」の項目が「そう思う」39%、「だいたいそう思う」57%となっており、あわせて95%と高い数字であった。校内における生徒の身だしなみについては、例年と変化なく意識の高い生徒が多いように感じられる。しかしながら、携帯電話(スマートフォン等)のルール違反者やSNS等における情報モラルの問題は少なからずあり、今後の大きな課題である。さらに、一部特定の生徒の生活態度等に問題があるという指摘もあり、継続的な指導が必要である。	防府商工の生徒の評価は、総じて高い。しかし、突出するところはもっと出さないと、「志」を全面に出してほしい。悪いことではないが、「きちんとすぎ」ている感じもある。変化にも対応できる生徒を育ててほしい。	A
特活	・学校行事等の活性化	・学校行事・各種委員会・部活動等において、主体的・創造的に取り組む態度を育て、活性化を図る。	4:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が90%以上であった。 3:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が80%以上であった。 2:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が70%以上であった。 1:学校評価アンケートにおいて、学校行事等の満足度が70%未満であった。	3	「クラスマッチ・文化祭・まちかどフェスタ等の学校行事が充実している」の項目に対し、「そう思う」と答えた生徒が34.8%、「だいたいそう思う」が49.3%となっており、あわせて84.1%という結果であった。今年度は2学期の始業式と同時に文化部発表会、次の日に文化祭を実施することとなり、クラス単位での練習がしっかり行えないままの実施となったこと、また、冬季クラスマッチでは第1体育館が使用できない状態になったということもあり、高い満足度につなげることができなかった。しかし、夏休みの最終日に会場準備やリハーサルをしたり、クラスマッチではリレーを実施するなど制約のある中で生徒たちが工夫をし、協力して自主的に運営したことは素晴らしいと思う。今後も生徒の意見をしっかりと聞き、心に残る学校行事を運営していきたい。	各種行事において、先頭を切ってやるような、積極的に自主性をもつ生徒を育ててほしい。そして、生徒のさらなる自主性を導き出す指導に取り組んでほしい。	B
安全	・安心・安全で落ち着いた学校づくりの実現	・全体集会での全体指導や朝の登校時や休み時間巡視での個別指導等、様々な場面において、啓発活動を継続して実施する。	4:校内での損傷被害・盗難の発生件数が30件未満であった。 3:校内での損傷被害・盗難の発生件数が40件未満であった。 2:校内での損傷被害・盗難の発生件数が50件未満であった。	4	正式に届け出られた損傷被害は2件、盗難被害は1件である。しかし、被害調査等を実施すると、教科書や電卓等の紛失が数件あがってくる。件数では目標を達成しているものの、友人に許可を取らない寸借など数字に表れないものがあるように思われる。また、当事者不明の壁の損傷が起きたり、スイッチ版が損傷したり、小さな損傷被害も不定期に発生している。安心安全な学校生活を送れるよう、啓発活動を継続していきたい。	該当生徒の事後指導については、反省状況をよく観察して、ケアをしながら当たってほしい。	B

保体	・掃除の徹底 ・ボランティア清掃活動の推進	・幸せますまちづくり運動や幸せ清掃隊を通じて推進を図る。 ・奉仕体験活動を通じ、進路選択に役立つ労働観や職業観を身に付けさせ、将来の社会人としての生き方を考える能力を養う。 ・校外清掃や奉仕活動等の積極的アピールを行う	4: 活動実績が予定の80%以上、実施することができた。 3: 活動実績が予定の70%以上、実施することができた。 2: 活動実績が予定の60%以上、実施することができた。 1: 活動実績が予定の50%以上、実施することができた。	2	学年単位で行う「幸せますまちづくり運動」に関しては年3回の計画に対し、3回実施した。清掃活動を通じて地域の方と交流し、一生懸命取り組むことにより将来への実践力を養っていただけると実感できた。幸せ清掃隊の活動は、毎月4のつく日に実施した。週休日や試験期間を除き6回の活動実績である。天候等に左右されることが多いため、今後は日常の活動の頻度を増やし、一般の生徒も参加していただけるようにしていきたい。また時間帯も朝より放課後の方がしっかりと活動できるため、改善していきたい。	若い時期にいろんなボランティア活動を体験することは大切である。実施回数に縛られずに、やろうとする気持ちを持って、これからがんばって欲しい。	B
相談	・教育相談体制の充実（個々をきめ細かくサポートをすることにより、学校生活全体の充実を図る） ・教育相談活動を中心にする、担任、学年、健康部全体と情報を共有し、連携体制のさらなる強化を図る。	・相談者を第一に考えたカウンセリングを行い、キャリアカウンセリング等を一層充実させ、生徒の将来に対する不安や悩みの解消をサポートすることで個々の自己実現の獲得を目指す。また発達障害等を抱える生徒の指導については地域コーディネーターとの連携をはかり対応していく。	4: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが80%以上であった。 3: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが70%以上であった。 2: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが60%以上であった。 1: 学校評価アンケートにおいて、学校生活に満足しているが60%未満であった。	4	1・2学期の相談室利用した生徒は延べ341名で、人間関係が46%、進学関係が39%、学習関係が11%、その他4%であった。相談課としては、来談者中心カウンセリングやキャリアカウンセリングにより生徒の自己実現のサポートは概ねできたと考えている。また「先生は、心身の悩みや進路(就職・進学)に関する悩みや相談を聞いてくれる」という問いに対しては「そう思う」と答えた生徒が45.9%、「だいたいそう思う」と答えた生徒が48.0%であった。肯定的評価は、全生徒の93.9%であった。	様々な悩みや問題を抱えた生徒に対して、それぞれ対応していくのは大変難しいことである。健康部全体で協力と連携を持って対応し、生徒がより良い学校生活が送れるように引き続き努力して欲しい。	A
就職	・就職希望者が自分の望む職種に全員合格	・学年に応じた進路指導を実践し、労働観・職業観を育成し、適切な進路情報を提供する。 ・積極的な企業訪問を実施し求人確保する。	4: 就職希望者の100%が就職内定を得た。 3: 就職希望者の90%以上が就職内定を得た。 2: 就職希望者の80%以上が就職内定を得た。 1: 就職希望者の80%未満が就職内定を得た。	4	進路情報の適切な情報提供を心がけ、積極的な企業訪問により求人確保に尽力し、就職試験に関しては全教員で指導に当たった。景気の後押しもあり、求人数は956名(昨年794名)で多くの求人をしていただくことができた。就職希望者はそれぞれ希望の職種を受験し、民間企業希望106名、公務員合格13名、就職希望者全員119名の就職が内定を得た。 (就職内定率100%)	防府商工生の礼儀、服装、資格取得状況とも素晴らしい、卒業後の進路にも役立っていると思われる。評価のハードルは高いが、よく頑張っていると思われる。	A
進学	・進学希望者の希望進路の実現	・生徒および進学先の情報収集を随時行い、個々の志望進路の実現に向けて、適切なサポート(アドバイスや対応策の研究・指示)を実施する。	4: 進学希望者の90%以上が第一希望の進路先に合格した。 3: 進学希望者の75%以上が第一希望の進路先に合格した。 2: 進学希望者の60%以上が第一希望の進路先に合格した。 1: 進学希望者の60%未満であった。	3	3学年のみならず、各教科担当・小論文担当の教員が年度当初から受験対策の指導にあたった。また、AO・推薦入試対策集中講座や日商簿記、TOEIC、英検などに対する特別指導など、個々の課題に即した実践力の育成を図った。その結果、8月の三者面談を経て進学希望を決定した生徒111名のうち、約8.5割の95名が第一志望校・学部・学科に合格した。	生徒一人ひとりの状況を把握し、個別の指導が行われている。生徒の希望する進学先合格に向けて継続した指導をしてもらいたい。	A
情報	・積極的な情報発信	・個人情報に配慮し、公式Webサイト等を利用し、学校の情報を適正に発信する。	4 公式サイトの月間更新回数が、10回以上であった。 3 公式サイトの月間更新回数が、5回以上であった。 2 公式サイトの月間更新回数が、2回以上であった。 1 公式サイトの月間更新回数が、1回以上であった。	2	学校行事の状況や緊急連絡用として情報を更新をおこなった。関係分掌との連携を深め、情報提供を呼びかけるなどすればもう少し更新回数を増やすことが可能になったかもしれない。	必要な情報を的確に発信し、充実させて欲しい。	C
	・効率的な業務推進	・業務改善のためのデータ処理方法の熟成を図り、操作習熟のためのマニュアル等の整備を行う。	4 業務改善のための取り組みを5件以上行った。 3 業務改善のための取り組みを3件以上行った。 2 業務改善のための取り組みを1件以上行った。 1 業務改善のための取り組みをしなかった。	4	成績処理など関係分掌や教職員からの要望に応じて毎年熟成を図っている。今後は、連携の在り方を模索し、より効率よく問題点を見つけ出し熟成が図れるようにしていく必要があると考えられる。	分掌官の連携を充実し、より業務がスムーズになって負担軽減につながるようにして欲しい。	B
専門	商業 ・ビジネスの基礎基本の育成と主体的学習の推進	・より高い検定級を目指す指導と雰囲気作りを行う。	4: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の50%以上であった。 3: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の40%以上であった。 2: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の30%以上であった。 1: 3種目以上1級合格者の割合が卒業生の30%未満であった。	4	今年度商業科卒業生のうち3種目以上1級合格者の割合が72.3%(112人/155人)(2月5日現在)で50%を超えた。7種目1級合格者も出た。資格取得に対する指導・支援だけでなく、今年度卒業生の学習意欲の高さも要因の一つである。資格取得という明確な目標設定で、生徒の主体的学習ができたことと考える。	防府商工生は、資格取得も含め全体的によくがんばっており、評判も良い。様々な指導を通じて、主体性を養ってほしい。	A
専門	工業 ・エンジニアとしての意識を高め、工業人としての知識・技能・人格を備えた人材の育成	・資格取得に積極的に取り組み、エンジニアとしての基礎知識と技能を身に付ける。機械科3学年全体で、マイスタポイント2800ポイントを目指す。	エンジニアとして技能を習得し、資格取得に挑戦させる。ジュニアマイスターポイント機械科生徒3学年235名で 4: 2800ポイント以上 かつ 3年ジュニアマイスター60名以上 3: 2500ポイント以上 かつ 3年ジュニアマイスター50名以上 2: 2200ポイント以上 かつ 3年ジュニアマイスター45名以上 1: 2200ポイント未満 かつ 3年ジュニアマイスター45名未満	1	機械科のジュニアマイスター受賞者は、H26年度は58/79(73.4%)、H27年度は51/76(67.1%)、と60%以上の取得率であったが、H28年度は43/77(55.8%)と50%台であった。また全校生徒のポイント取得は、H27年度は1月末は1435ポイント(最終:2397ポイント)であったが、H28年度は1月末は1495ポイント(最終見込み2100ポイント)と300ポイント少なくなる見込みである。これらの原因として、技能検定受検は希望受験に変更、危険物取扱者試験(乙種第四類)の合格率が非常に悪いことがあげられる。目標には届かなかった。	防府商工生は、資格取得も含め全体的によくがんばっている。目標設定が高すぎることもあるが、それに向かって努力することも必要である。次年度に期待したい。	C
業務改善	学校の組織等	・各分掌毎に生徒の進路実現に関係する情報の受発信を有機的に行い、指導方法の充実・改善を図る。	4: 生徒の進路実現に向けた分掌の業務改善を行い、進路決定率が100%であった。 3: 生徒の進路実現に向けた分掌の業務改善を行い、進路決定率が90%以上であった。 2: 生徒の進路実現に向けた分掌の業務改善を行い、進路決定率が80%以上であった。 1: 生徒の進路実現に向けた分掌の業務改善を行い、進路決定率が80%未満であった。	3	学習指導、生徒指導、特別活動等本校教育の様々な場面において、生徒の進路実現に有効な指導方法を検討・実施した。特に、受験前の面接指導は全教員が関係生徒に対して十分な指導を行った。3年生就職希望者の内定率は99.2%、進学希望者の進学先決定率94.1%であり、国公立大学合格者は14名であった。(2月1日現在)	学校の指導における努力は評価できる。引き続き指導の充実を図ってほしい。	A
	日常的な業務	・会議時間の短縮	4: 勤務時間内に全ての会議が終了した。 3: 勤務時間内での会議終了が80%以上であった。 2: 勤務時間内での会議終了が60%以上であった。 1: 勤務時間内での会議終了が60%未満であった。	2	定例の運営委員会・職員会議は勤務時間内での終了割合が60%であった。各分掌・教科・委員会・学年の会議は勤務時間外となる場合が多く、本校教育の充実に向けた取組と業務改善のアンバランスが生じているのが現状である。協議事項の関係者による事前連絡・協議等によって、効率的に会議が実施できるようにしたい。 なお、本年度は、定例職員会議の議題を扱う時期を整理することにより、5月・1月の会議を2回分圧縮することができた。	業務改善、効率化を推進してもらいたい。	C
	勤務状況	・教職員の健康維持	・休日の業務等を踏まえ、年休・代休・職専免のバランスの良い組み合わせを奨励し、教職員の健康維持を推進する。	4: 年次有給休暇と夏期厚生計画で年間平均一人16日以上取得できた。 3: 年次有給休暇と夏期厚生計画で年間平均一人12日以上取得できた。 2: 年次有給休暇と夏期厚生計画で年間平均一人10日以上取得できた。 1: 年次有給休暇と夏期厚生計画の取得が年間平均一人10日未満であった。	4	年次有給休暇と夏期厚生計画で年間平均一人16.4日で、昨年度の15.8日に比べ、0.6日ほど改善された。しかし、業務時間記録表(時間外業務)の平均時数は1か月当たり約74時間で昨年度の約70時間と比べると4時間程度長くなっている。また、時間外勤務が月100時間を超える教職員の割合も23.1%で、昨年度とほぼ変わりなく、ワークライフバランス及び教員の健康管理については課題がある。	健康維持は、日々の蓄積によるものであるから長期的な視野で受け止め、十分な配慮が必要である。ワークライフバランスを大切にし、教職員それぞれが、健康管理について自覚する必要がある。

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

【生徒部安全】施設・器物の破損や物品の紛失は、教育的な観点からもその他の生徒への影響を及ぼすので考慮する必要がある。
【情報部】学校の様々な活動をWebを充実させ、さらによりよい情報発信に力を入れ、学校の価値を高めるべきだ。
【業務改善】教職員も「働き方改革」について考えワークライフバランスを大切にすべきである。教職員の健康への向き合い方は、生徒の教育にも影響が出てくるはず。
【全般】生徒から熱意が感じられ、あいさつや笑顔が良くコミュニケーション力もあり、防府商工高校に対する地域の評価はかなり高いものがある。がしかし個々の活動の中には「変化への対応」より「保守的」に見えるところがある。今後、学校がさらにグレードアップした違うステージに立つためには、生徒の「自主性」「強い意志」「主体性」を育み、変化への対応力を身に付けさせる工夫が必要となる。

7 次年度への改善策

【業務改善】各分掌での業務の見直しや分掌間での連携について整理し実践するとともに、職員会議で取り扱う連絡事項については、職員朝礼を活用するなどして職員会議のスリム化を図る。教職員の時間外業務や健康管理については、我々教職員の日常の在り方そのものが生徒に影響することの自覚を促し、適正化を促す。
【全般】学校運営協議会の導入により持続性のある地域連携を可能とし、学校運営をより計画的、効率的に進め質の高い教育と教職員の働き方改革を推進する。